

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

研究代表者 近藤 尚也 北海道医療大学

研究要旨

本研究では、障害福祉領域における連携に関する先行研究の調査、実践に携わる専門実践家に対する意見交換・インタビュー調査、また、それらをもとに調査票を作成し、相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する全国アンケート調査を実施した。連携のとらえ方に関する検討を重ねるとともに、相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する実態について明らかとなった。今後の取り組みとなる連携に関する評価ツール開発に向けた基礎資料を得ることができた。

分担研究者：大久保 薫 札幌学院大学

金澤 潤一郎 北海道医療大学

鈴木 和 北海道医療大学

研究協力者：有野 哲章 社会福祉法人蒼溪会

菊本 圭一 特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会

酒井 京子 大阪市職業リハビリテーションセンター

鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター

大塚 慎之介 広尾てくてく

川島 成太 名西郡障がい者基幹相談支援センター

田中 雅之 名古屋市総合リハビリテーションセンター

望月 明広 横浜市総合保健医療センター

矢野 太亮 大分市障がい者相談支援センターコーラス

片山 寛信 北海道医療大学

久野 真知子 北翔大学

A. 研究目的

本研究では、相談支援専門員と、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下、サビ児管）の連携について、サー

ビス等利用計画と個別支援計画・障害児支援利用計画（以下、個別支援計画等）の連動を効果的に行うための要因や、サビ児管の効果的な連携を進めるための要因を明ら

かにし、それらを基に実践で活用可能な相談支援専門員とサビ管等の連携業務を評価点検するための尺度及びツールを開発し、提案することを目的とした。当該年度では、評価ツールを作成するための基礎資料を得ることを目指した。

B. 研究方法

研究① 文献調査

文献データベースによるキーワード検索、行政や研究機関が行う調査報告書等の検索、政府の公開会議の資料の確認などから、福祉、医療等における連携に関する先行研究を確認した。

研究② 質的研究（検討委員会形式意見交換）

全国規模で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者による検討委員会（9名）を組成し、連携のとらえ方、および全国調査の調査項目設定に向けた意見交換・検討を通して専門的知見から情報収集を行った。

研究③ 質的研究（実践家へのインタビュー調査）

相談支援専門員及び行政機関職員の協力を得て、連携のとらえ方、求める連携の内容等について半構造化インタビューから情報収集を行った。

研究④ 連携のとらえ方に関するアンケート調査

本研究領域における実践家が連携をどのようにとらえているかを明らかにするためにWEBアンケート調査を実施した。対象

は専門職ネットワークおよび、実践家の協力による機縁法にて収集した。

研究⑤ 量的研究（全国アンケート調査）

①～④で得られた内容から調査項目を設定した。本調査実施に向けて、作成した調査票案について予備調査を行い、調査項目を点検・修正を行った。完成した調査票（基本事項12項目、連携に関する事項57項目）は、障害福祉サービス事業所（相談系、就労訓練系、介護系、施設入所系、居住系、障害児系）に所属する対象専門職へ送付して、郵送またはWEBシステムにて回答を求めた。回収率30%以上を想定し、合計9,000件に送付した。調査対象はWAMNETのオープンデータ（2021年11月現在）から得られた事業所情報をもとに層化抽出（比例割当）にて実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。（21N020020、21N028027）

C. 研究結果

研究①では、CiNii Articles（以下CiNii）を活用して障害福祉領域における専門職の名称を検索語句としたところ、“相談支援専門員”で108件、“サービス管理責任者”で13件、“児童発達支援管理責任者”では1件のみで、他領域と比べて先行研究は多くはない状況であった。また、“連携”と関連語句で検索を行ったところ、関連諸領域の中で、“連携”と合わせて検索した結果が多かったのは、介護支援専門員（297

件) やケアマネージャー (384 件)、ソーシャルワーカー (369 件) であった。高齢者領域や医療ソーシャルワーカー、MSW (Medical Social Worker) といった医療領域での文献が多く見られた。加えて、障害福祉領域における連携に関する研究は事例研究として行われているものが多いことも明らかとなった。看護など周辺領域においても連携に関連する研究が行われており、連携に関する要因についての研究についてもいくつか取り組まれている現状が明らかとなった。

研究②及び研究③では、連携のとらえ方について、先行研究を踏まえた linkage、coordination、full integration レベルの視点について意見交換を実施した。相談支援専門員とサビ児管の各専門家の視点についての情報を得ることができた。立場や地域などによって、連携として求める視点や必要としている内容が異なる点が指摘された。また、行動(行為)の客観的な有無のみならず、その質(内容的視点)についての重要性も指摘された。多角的な視点を通しつつ連携を評価できる一定の枠組みとしてのミニマムスタンダードの整理について求められていることが示唆された。連携のとらえ方について多様な状況ある中で、評価ツール開発に向けた本研究における連携の定義の必要性も示唆された。

加えて、研究②では、全国調査に向けて作成した調査票案についての意見交換も実施した。

研究④

連携のとらえ方に関するアンケート調査

では、相談支援専門員等から 57 件の回答が得られた。連携のとらえ方について記述回答を求めたところ、「多職種間で連絡を密に取り合い、情報共有する」「協力して一緒に支援すること」「支援に当たっての具体的な協働や役割分担」など、情報共有、役割分担、協働、連絡、協力について共通して多く挙げられていた。

研究⑤

研究①～④の取り組みから、連携をとらえるための項目を整理し、調査項目を設定、調査票の作成をすることができた。全国調査では 9000 件郵送し、回答者の属性としては、相談支援専門員(相談支援専門員、主任相談支援専門員)が 841 件、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者が 2090 件、不明が 20 件であった。所属事業所の系統については相談系 813 件、介護系 382 件、就労訓練系 763 件、居住系 230 件、施設入所系 74 件、障害児系 689 件であった。

連携に関する項目は「1:全く当てはまらない」～「6:十分に当てはまる」の 6 段階での回答であった。多くの項目で相談支援専門員とサビ児管の回答が近い傾向がみられた。また、連携行動や連携環境に関する項目では、「6:十分に当てはまる」に向かうほど回答の割合が高くなる傾向のものが多く見られたが、連携意識に関連する内容では、中央の割合が高くなる傾向がみられた。

一方で、専門職によって傾向に違いがみられた項目もあった。「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議を主催している」の項目は、相談支援

専門員は「6：十分当てはまる」に向かうほど高くなっていくが、サビ児管については、そのような傾向はみられなかった。

「利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している」についても、回答の傾向に違いがみられた。

D. 考察

研究① 文献調査

障害福祉領域における連携に関する研究は他分野と比較して少ないことが明らかとなり、連携に関する基礎資料を得ることの重要性が示唆された。また、連携のとらえ方について、定義を示した先行研究もあり、一定程度共通認識が進んでいるものの、相談支援専門員とサビ児管での具体的な連携に関する内容については、取り組みそのものが少なく、より必要な内容であると考えられる。

研究②及び研究③

先行研究では確認できなかった本研究の対象となる相談支援専門員とサビ児管の連携について、専門職の視点から連携のとらえ方に関する情報を得ることができた。連携のとらえ方について、先行研究の枠組みを参考に意見交換を進めたところ、各専門職としての立場からの違いや、より構造的にとらえやすい連携における枠組み、行動（客観性）だけではない意識化された内容（主観的）に関する視点の必要性などについての意見が出された。

また、本研究における連携の定義に関する具体的な内容について、全国調査で明らかとする実態を踏まえた整理が必要であると考えられた。

連携に関する先行研究においては、関係性や意識、行動的側面に関する要因からとらえる試みも確認できたが、本研究における意見交換の中でも同様の内容がみられており、相談支援専門員とサビ児管の間でも一定程度共通性があることが示唆された。また、連携について、その範囲（ミクロからマクロ）としてのとらえ方、深さとしてのとらえ方といった多面的な評価の視点を検討することの必要性も示唆された。

研究④

連携のとらえ方に関するアンケート調査では、支援計画の共有について、十分にできていない場合も多いとの意見がみられた。特に関わる機関が多くなる相談支援専門員でそのような傾向が見られていた。また、連携のとらえ方について、記述回答内容から一定の共通認識を確認することができた。一方で、連携のとらえ方に関するこれらの内容について、抽象度が高い状況でもあるため、より具体的な項目として共有できるよう整理を進めるとともに、各専門職種によつての相違点についても明確化して、評価ツール開発に向けた視点とすることも必要と考える。

研究⑤

本研究では、研究①～④の結果を踏まえて全国調査用の調査票を完成した。連携に関する項目57項目となったが、そのうち、連携行動として想定した項目について、十分な実施をしているとの回答が多い傾向がみられた。例えば、「相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議に参加している」「利用者の支援

を検討する会議での内容を支援計画に反映させている」といった項目が挙げられる。

一方で、「担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている」「利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる」といった関係性が関連する項目については、回答が中央による傾向がみられた。

また、相談支援専門員とサビ児管の二者間の関わりに比べ、「支援計画書について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している」といったような三者以上とのやり取りを含む内容では、実施している割合が低くなる傾向がみられた。調査結果から、連携の実態について具体的な理解が進められた。

連携評価ツールを検討するにあたり、客観的な視点としての行動的側面だけではなく、各専門職自身が相手との関係性をどのようにとらえているのかといった主観的な要因も含めて、十分に検討していくことの必要性が示唆された。

E. 結論

本研究では、相談支援専門員とサビ児管

の連携に関する調査票を作成し、全国調査を実施することができた。調査結果より連携の実態について明らかにすることができ、障害福祉領域の相談支援専門員とサビ児管の連携に関する基礎資料として重要なデータを得ることができた。また、全国調査と合わせ、意見交換等質的取り組みからも、評価ツールの開発に向けた連携のとりえ方等に関する資料につながった。

本研究成果をもとに次年度は、結果のさらなる分析を行い、連携評価に関する尺度及び評価ツールの開発を目指す。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

論文発表

鈴木和、近藤尚也、片山寛信「障害福祉領域における専門職の連携に関する文献レビュー - 支援計画に携わる視点から -」北海道医療大学看護福祉学部学会誌 18 (1)

p121-126

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

「相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する調査」調査票

本調査の回答は、事業所の人員配置として必要な要件を担う「相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」の方、おひとりをお願いいたします。回答は、各専門職個人の立場からお答えください。また、回答の際はできる限り新型コロナウイルスの影響を考えずにお答えください。設問は全部で69問あります。

用語について：①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者については「サビ児管」

②サービス等利用計画・障害児支援利用計画については、「サービス等利用計画」と表記します

I 基本情報（あてはまるものに○をつける、または数字・地名を記入して下さい）

1 あなたの年齢はおいくつですか（数字のみを記載してください）

（ ） 歳

2 あなたの性別はどちらでしょうか（1つに○をつけてください）

1, 男性 2, 女性 3, 回答しない

3 事業所所在地域（都道府県・市区町村）はどちらになりますか（地名を記入してください）

都道府県名（ ） 市区町村名（ ）

4 あなたが今回回答する所属事業所のサービス種別は何ですか（可能な限り封筒宛名に記載された種別についてご回答ください。）（1つに○をつけてください）

1, 相談支援 2, 療養介護 3, 生活介護 4, 就労移行支援 5, 就労継続支援A型 6, 就労継続支援B型
7, 就労定着支援 8, 自立訓練（機能訓練） 9, 自立訓練（生活訓練） 10, 自立訓練（宿泊） 11, 共同生活援助
12, 施設入所支援（障害者支援施設） 13, 児童発達支援（医療型含む） 14, 放課後等デイサービス
15, 居宅訪問型児童発達支援 16, 保育所等訪問支援 17, 障害児入所施設（福祉型・医療型）

5 あなたが所属している事業所は多機能型事業所ですか（1つに○をつけてください）

1, はい 2, いいえ

6 主な支援の対象となっている障がいについて、最も当てはまるものは何ですか（1つに○をつけてください）

1, 身体障がい 2, 知的障がい 3, 精神障がい 4, 発達障がい 5, 重症心身障がい
6, すべての障がい 7, 判断が難しい 8, その他

7 事業所を運営する法人の種別は何ですか（1つに○をつけてください）

1, 社会福祉法人 2, 特定非営利活動法人 3, 株式会社 4, 合同会社 5, 有限会社
6, 社団法人 7, 医療法人 8, 行政機関 9, その他

8 あなたの職種はどちらですか（1つに○をつけてください）

1, 相談支援専門員 2, 主任相談支援専門員 3, サービス管理責任者 4, 児童発達支援管理責任者

9 現在の職種の経験年数は何年になりますか（数字のみを記載してください）

（ ） 年

10 保有している国家資格等として、主となるものはなんですか（1つに○をつけてください）

1, なし 2, 医師 3, 歯科医師 4, 薬剤師 5, 保健師 6, 助産師 7, 看護師 8, 准看護師
9, 理学療法士 10, 作業療法士 11, 社会福祉士 12, 介護福祉士 13, 視能訓練士
14, 義肢装具士 15, 歯科衛生士 16, 言語聴覚士 17, あん摩マッサージ指圧師 18, はり師
19, きゅう師 20, 柔道整復師 21, 栄養士 22, 管理栄養士 23, 精神保健福祉士 24, その他

11 一月当たり（1年間の平均）の担当利用者数（相談支援は計画の担当者数）はどのくらいいますか（数字のみを記載してください）

（ ） 人（件）

12 所属事業所の職員数はどのくらいいますか（数字のみを記載してください）

（ ） 人

II 連携に関する項目

※「相談支援専門員」の方は、自身と「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」とのやり取りを想定してご回答ください。「サビ児管」の方は、自身と「相談支援専門員」とのやり取りを想定してご回答ください。

共通して担当している利用者のことで、あなたが関わっている「相談支援専門員」もしくは「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者」全般について、現在までの取り組み状況として考えられる数字に○をつけてください。数字は「1（全く当てはまらない）～6（十分に当てはまる）」で構成されています。また、回答の際はできる限り新型コロナウイルスの影響を考えずにお答えください。

		ま ら な い	全 く 当 て は ま ら な い	1	2	3	4	5	6
13	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している	1	2	3	4	5	6		
14	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している	1	2	3	4	5	6		
15	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している	1	2	3	4	5	6		
16	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている	1	2	3	4	5	6		
17	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている	1	2	3	4	5	6		
18	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している	1	2	3	4	5	6		
19	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている	1	2	3	4	5	6		
20	支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている	1	2	3	4	5	6		
21	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	1	2	3	4	5	6		
22	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	1	2	3	4	5	6		
23	支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している	1	2	3	4	5	6		
24	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	1	2	3	4	5	6		
25	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	1	2	3	4	5	6		
26	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	1	2	3	4	5	6		
27	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	1	2	3	4	5	6		
28	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	1	2	3	4	5	6		
29	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	1	2	3	4	5	6		

		ま ら な い	全 く 当 て は					は ま る け	十 分 に あ て
30	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している	1	2	3	4	5	6		
31	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している	1	2	3	4	5	6		
32	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している	1	2	3	4	5	6		
33	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている	1	2	3	4	5	6		
34	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	1	2	3	4	5	6		
35	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	1	2	3	4	5	6		
36	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	1	2	3	4	5	6		
37	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している	1	2	3	4	5	6		
38	担当利用者のことにかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	2	3	4	5	6		
39	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	1	2	3	4	5	6		
40	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	1	2	3	4	5	6		
41	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	1	2	3	4	5	6		
42	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	1	2	3	4	5	6		
43	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている	1	2	3	4	5	6		
44	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	1	2	3	4	5	6		
45	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	1	2	3	4	5	6		
46	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	1	2	3	4	5	6		
47	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	1	2	3	4	5	6		
48	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	3	4	5	6		
49	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている	1	2	3	4	5	6		
50	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている	1	2	3	4	5	6		

		ま い ら い	全 く 当 て は				は ま る	十 分 に あ て
51	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている	1	2	3	4	5	6	
52	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている	1	2	3	4	5	6	
53	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている	1	2	3	4	5	6	
54	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている	1	2	3	4	5	6	
55	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている	1	2	3	4	5	6	
56	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている	1	2	3	4	5	6	
57	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける	1	2	3	4	5	6	
58	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている	1	2	3	4	5	6	
59	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している	1	2	3	4	5	6	
60	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる	1	2	3	4	5	6	
61	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている	1	2	3	4	5	6	
62	メールや ICT を活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている	1	2	3	4	5	6	
63	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある	1	2	3	4	5	6	
64	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある	1	2	3	4	5	6	
65	所属組織の中に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）体制が整っていると感じる	1	2	3	4	5	6	
66	所属組織がある地域に、スーパービジョン（支援を検討するためのアドバイスなど）の環境が整っていると感じる	1	2	3	4	5	6	
67	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている	1	2	3	4	5	6	
68	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている	1	2	3	4	5	6	
69	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している	1	2	3	4	5	6	

長時間にわたるご協力ありがとうございました。